

第 72 回京都府蔬菜原種審査会（つるなしインゲン）を開催

6 月 26 日、当センターにおいて、京都府種苗協会主催のつるなしインゲンを対象とした京都府蔬菜原種審査会※が開催されました。本審査会は、現場での生産に適した優良野菜品種の開発普及を促進することを目的とするもので、当センターは栽培と審査会の運営及び審査を務めました。

当日は、府内外の種苗会社 4 社から出品された 8 品種について、当センター栽培技術開発部、京都府農産課、各種苗会社の審査員 11 名が、ほ場での生育状況及び収穫物を審査しました。その結果、莢の大きさや色のそろいがよい 3 品種を入賞品種として選定しました。

※京都府蔬菜原種審査会:蔬菜(野菜)の販売用に増殖を行う前の種子を用いて栽培や収穫物を評価する



ほ場での生育状況審査の様子



1等に入賞したつるなしインゲン

タケノコのノメイガ類に対する農薬登録拡大試験

府内のタケノコ園において、タケの葉を食害する外来のノメイガ類(シナチクノメイガ、キモンホソバノメイガ)の幼虫が発生し、問題となっています。しかし、タケノコのノメイガ類に登録のある農薬はない※ため、生産現場からは防除対策の確立が求められています。そのため当センターでは、タケノコのノメイガ類に対する農薬登録拡大試験に取り組んでいます。

6 月中下旬に、京都市及び長岡京市のタケノコ園で試験薬剤を散布し、定期的に葉に寄生するノメイガ類の幼虫数及び薬害の有無を調査しました。今後、調査データを取りまとめて、関係機関に登録拡大の申請を行う予定です。

※令和 7 年 9 月 1 日から、植物防疫法第 29 条第 1 項に基づく特例措置として、タケノコのノメイガ類に対して、当面の間、エスマルク DF の使用が可能となっています。



親竹の樹冠部にかかるように
薬剤を散布



親竹の枝を切除してノメイガ類の幼虫数を調査

早生樹（コウヨウザン）単木保護資材試験

コウヨウザンは、生育が早い樹種（早生樹）として、近年注目を集めていますが、スギよりシカの食害を受けやすい傾向があります。また、シカの食害から苗木を保護する単木保護資材では、スギやヒノキには効果が高いものであっても、コウヨウザンには効果が低いものがあります。

そこで、当センターでは、コウヨウザンに有効な単木保護資材の特定を進めており、6月に、南丹市内の府有林において、コウヨウザンとスギのコンテナ苗各20本を植栽し、単木保護資材を施工しました。本資材は、折り畳み式のため、可搬性に優れ、設置も容易であることが確認できました。今後、経過を観察し、コウヨウザンでの効果を確認します。



折り畳み式単木保護資材

（高さ1.7mの保護資材だが、ジャバラに折りたたまれており、一度に多数持ち運べる）



植栽地全景

（令和5年度にコウヨウザンとスギを植栽したが、シカの食害を受けスギの一部しか生育していない）

農林センター（森林技術センター）

高校生がブドウの房づくりを実習

6 月 17 日、当所にて、府立清新高等学校で果樹栽培を学ぶ学生 4 名が、ブドウの摘粒（果粒の数を適切な量に調整する作業）を行いました。

摘粒作業はブドウの外観と重量、糖度、色づきなど、品質に直接関わる重要な作業であるため、手をかけた分だけ品質が向上します。今後は本実習で調整した房がどのような形になるかを確認し、品質にどのような差が出るのかを確認してもらう予定です。

本実習は、京都府における果樹生産の担い手育成の一環として実施しており、今後も同校と連携し、継続的に取り組んでいく予定です。



摘粒の説明を受けながら作業を行う様子

てん茶保管技術の確立に向けた茶商業者への聞き取り調査

抹茶の原料であるてん茶は品質向上のため、保管による熟成が重要とされていますが、そのしくみや最適な保管条件は十分に解明されていません。このため当所では、熟成のしくみを解明し、熟成を活かした保管技術の確立に向けた研究を行っています。

てん茶の保管試験の実施に先立ち、府内の茶商業者を対象に、てん茶の仕立て状態や容器、温湿度条件、期間などの保管方法に加え、熟成の考え方について聞き取り調査を行いました。

その結果、低温管理や脱気による鮮度保持を図る事例がある一方で、常温や酸素を含んだ条件で半年から 1 年程度保管することにより、味がまろやかになるといった品質変化を活用するなど、目的に応じた様々な管理方法が採用されていました。

今後は、本調査で得られた知見を試験条件の設定に反映させるとともに、熟成を活かした保管技術の確立に向けて検討を進めてまいります。



茶商業者からてん茶の保管条件について聞き取りを行う職員(右)

『祝 2 号』改良に向けて育種素材を探索

酒造好適米『祝』は、令和 6 年産から当センター育成の『祝 2 号』に切り替わりました。しかし、『祝 2 号』には、高温により白未熟粒が増加して 1 等米比率が低下することや、醸造時に蒸米が溶けにくいことなどの課題があります。

そこで当センターでは、高温耐性の向上と酒造適性の改善を目標に、『京の輝き』や従来の『祝』などの特性評価と遺伝解析を進めるとともに、『祝2号』の改良に活用できる育種素材の探索に取り組んでいます。

6 月上旬は、従来の『祝』、『祝 2 号』、『京の輝き』に加え、『祝 2 号』の交配親の『兵庫錦』、高温耐性の基準となる『京式部』、さらに高温耐性や酒米の消化性に優れた品種について田植えを行いました。

今後は、一部区画で高温処理を行いながら玄米品質や消化性を評価し、交配親として利用できる品種の選定と DNA マーカー※の探索を進めることにしています。

※DNA マーカー:ある形質を発現する遺伝子の有無を見分けるための DNA の目印



手植えにより田植えを実施



今後、片側にビニール被覆を行い高温処理

今年度の試験開始！！～黒大豆エダマメの定植～

当センターでは、緑肥作物へアリーベッチを黒大豆エダマメを植える前にすき込むことにより、黒大豆エダマメに発生するイモムシ類による被害が軽減される現象を確認しました。現在、その再現性の確認とこの現象が引き起こされるメカニズムの解明について、国、大学及び民間会社と共同研究を進めています。

6月24日には、当センターの試験ほ場において、黒大豆エダマメの苗を定植しました。

今後は、2週間間隔で、黒大豆エダマメにおけるイモムシ類の発生状況を中心に調べます。また、実際の生産現場では、黒大豆エダマメの他にアズキを用いた同様の試験を行っています。



職員総動員による定植作業



黒大豆エダマメの苗

農場衛生管理講習会で試験研究成果を報告

6月9日、京都経済センターにて農場飼養衛生管理強化対策講習会が、(公社)京都府家畜畜産物衛生指導協会の主催で開催され、府内の養鶏関係者や飼料メーカーなど計36名が参加しました。

当センターからはこれまでの研究成果として、家畜伝染病予防対策を中心にネズミ防除対策や暑熱対策について紹介しました。

特に暑熱対策に対する関心が高く、既存のいくつか対策を紹介したところ「どの方法が低コストで、効果的か」といった質問が寄せられました。

今後も当センターは、試験研究成果の普及を通じて府内の畜産経営の安定化と家畜防疫体制の強化に貢献していきます。



参加者に向けて試験研究成果を紹介

漁業者にズワイガニの新たな保護策を提案しました

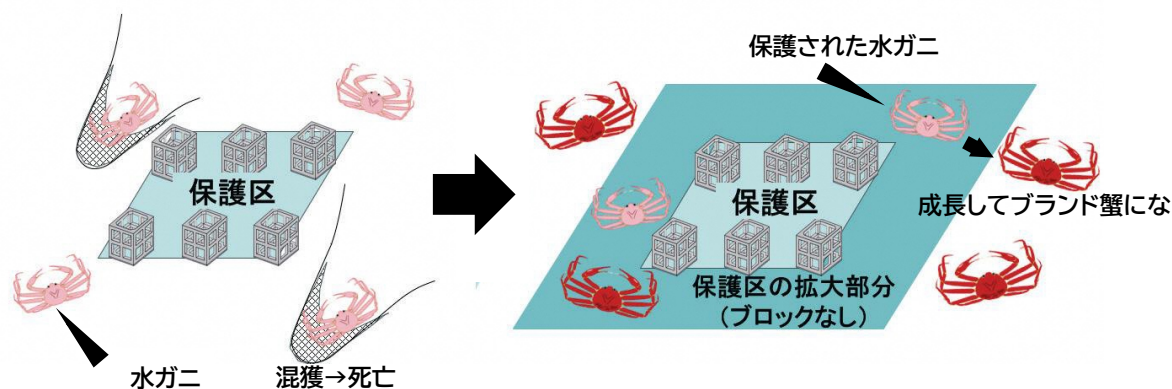
京都府沖合ではズワイガニの乱獲などを防止するため、全国に先駆けコンクリートブロックを設置した保護区が設定されています。

当センターでは令和 5 年度から保護区内外で調査船「平安丸」によるカニ簗調査を実施し、区内で多くの雌親ガニが保護されていることが確認された一方、区外では水ガニ※が多く採捕されました。水ガニは自主規制により水揚げ禁止のため、網に入ったときには速やかにリリースされますが、その多くは死亡することが分かっています。

保護区を一定規模で拡大すれば水ガニが保護され、5 年後にはブランド蟹が現状の 155%に増加すると試算されました。6 月 2 日に京丹後市において、府沖合で操業する京都・兵庫・福井の漁業者による懇談会があり、職員から水ガニを積極的に保護するための保護区の拡大について説明・提案しました。同会に参加した多くの漁業者からは賛同が得られました。

現在、府沖合で操業する全ての底曳網漁業者による合意に向けて調整されており、より早く合意が得られるように、当センターは科学的な見地からサポートを続けます。

※水ガニ：脱皮直後のオスガニ。翌年以降甲羅が堅くなり、ブランド蟹となる。



保護区拡大のイメージ図